

農技セ第6509号
平成28年7月4日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成28年度技術情報について

平成28年度技術情報第2号を発表したので送付します。

平成28年度技術情報第2号

平成28年7月4日
徳島県

冬春イチゴの親株において、イチゴ炭疽病菌の潜在感染を検定した結果、採集葉に分生子塊の形成が多数確認されました。このことから、今後、育苗株に炭疽病の発生が懸念されます。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：冬春イチゴ
病虫害名：炭疽病

1.発生地域 県下全域

2.発生時期 7月～

3.発生状況

平成28年6月13日に、徳島市、小松島市、阿南市、佐那河内村、阿波市の14圃場より、それぞれ育苗中のイチゴ親株20株の最外葉を1株当たり1葉、計20葉採集し、イチゴ炭疽病の簡易予察検定法に基づき検定した。その結果、調査14圃場中9圃場(64.3%)から炭疽病菌が検出された。中には、潜在感染株率が80%となる圃場も見受けられた(表1, 図1)。

前年(11圃場中9圃場, 81.8%)と同様、広い範囲で本病原菌が潜在感染していることが確認された。

4.防除法等

- (1)本病は雨滴により分生子が飛散、伝染し、発病を広げるため、育苗圃場では雨よけを行う。
- (2)薬剤は予防的に用い、7日～10日間隔で散布を行う。
- (3)葉かきを定期的に行い、株間の風通しを良くする。また、葉かき後は必ず薬剤による予防散布を行う。
- (4)株元灌水等の水滴の跳ねがない灌水方法を用いる。
- (5)防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 イチゴ親株における炭疽病潜在感染調査結果

	採集地		育苗方法	感染株数	感染株率(%)	平成27年の感染株率(%)
1	徳島市	三軒屋町	棚育苗	0	0	25
2	徳島市	八多町①	棚育苗	7	35	0
3	徳島市	八多町②	棚育苗	6	30	75
4	小松島市	横須町	棚育苗	2	10	—
5	阿南市	加茂町	棚育苗	16	80	80
6	阿南市	楠根町①	棚育苗	5	25	—
7	阿南市	楠根町②	棚育苗	7	35	50
8	佐那河内		棚育苗	0	0	10
9	佐那河内		棚育苗	0	0	0
10	阿波市	高尾	棚育苗	0	0	20
11	阿波市	吉田	棚育苗	3	15	15
12	阿波市	吉田	通常育苗	—	—	70
13	阿波市	西ノ岡	棚育苗	12	60	—
14	阿波市	日開谷	棚育苗	4	20	—
15	阿波市	本安	棚育苗	0	0	0

注) 表中「—」は未検定



図1 イチゴ親株の外葉上に形成された炭疽病菌分生子塊